

発達障害の看護師が指導を受ける中で抱く違和感の語り

A nurse with developmental disorder talks about the discomfort they feels while receiving the teachings through.

中西 愛

Ai Nakanishi.

関西医科大学看護学部（立命館大学人間科学研究科）

Kansai Medical University Faculty of Nursing (Ritsumeikan University Graduate School of Human Sciences)

Key words: 看護師, 発達障害, 指導

目的

看護師の離職率は、新人看護師、既卒看護師に共に増加しており、特に新人看護師は過去最高の離職率を示している。発達障害を抱えながら就労する看護師の増加も報告されているが、看護職として求められる資質の問題や患者の安全が確保できない等が背景となり、約8割の施設が採用に否定的である（戸部, 伊東, 2020）。発達障害を含めた多様な背景や個性に対応できる指導方法の見直しは看護師の離職要因を減らす有効な対策であると考えた。発達障害のある看護師が指導を受ける中で抱く違和感の捉え方から、指導方法の見直しを検討する。

方法

発達障害の診断があり、入職から現在まで受けた指導で違和感を抱いた経験があるADHDの看護師（以下A氏）にインタビューを行った。分析は、複線径路・等至性アプローチ：TEA (Trajectory Equifinality Approach) に基づきTEM: (Trajectory Equifinality Modeling)作成のインタビューを3回行った。1回目のインタビューからTEM図を作成し、2回目はTEM図提示により再作成のためのインタビュー、そして3回目のインタビューの結果を得て、TEM図の再改訂を行った。

結果

前職の離職経験から発達障害の診断に至ったプロセスや《SG主治医と将来について相談》し看護師を目指すことになった経路を就業前期とし、看護師として就業してからの経路をI期からIV期とした。

I期【見出した進路への期待感】は入職、入職1か月、入職2か月の3つに区切られた。入職当時は「前職よりも楽しい」と期待を抱いていたが入職1か月で《OPP^①自立に向けた看護実践の指導が始まる》ことが契機となり《BFP^②指導が理解できない》ことで違和感を抱き「仕事が覚えられない、しんどい」と感じることや「同じ職場にとどまることへの苦痛」を感じるようになる。II期【就業困難から就業継続の選択期】は前、後期に分けられ、前期（入職3か月から半年）では仕事のしんどさから《BFP^②「離職」しようかと悩む》中、就業を続けながら働き方を模索検討する。そして後期（入職半年から1年）で

は自分が忘れやすく飽きやすいことや職場環境が良いと感じていることが苦痛を緩和させ《EFP就業の継続》に至った経路が示された。さらにIII期【視野の拡大と就業環境への困惑期】からIV期【組織就労への限界と進路開拓期】では、できる業務が増え《SG^③上司から褒められる》ことと「長く勤務していくほどできないことがバレる不安」が違和感となり《2ndEFP離職「看護と法務を両立させた起業」》に至るまでの経路が示された。

考察

A氏は入職1か月目までは「前職よりも楽しい」と話し《OPP^①自立に向けた看護実践の指導が始まる》2か月目からは《BFP^②指導が理解できない》と語っている。対人援助職である看護師の実践は、基本を遵守しながらも患者に合わせた方法で行うことが多く、同時に様々なニーズを持つ患者へのタイムリーな対応も求められる。そのため常に多重課題を抱えている。このような患者に合わせた臨機応変な対応や、患者のニーズを察するといった言語化されない実践が、A氏には違和感として捉えられたのではないだろうか。また、組織独自のルールや《^④看護職独特の慣習に困惑》したことも違和感を抱くことに繋がったと考える。そして違和感を抱えたまま次の指導を受けることで「同じ“できないこと”が繰り返される」経路を辿ったのではないだろうか。

指導者は、指導した相手の理解の程度を確認し、理解できていない箇所は相手に合わせて繰り返し補うこと、実践したことを細やかに言語化するスキルが必要である。

自己と他者が違う人格であることや相手の性格や特性を理解すること、また既存のルールや方法にとらわれなことも相手が理解しやすい指導に繋がる。看護師を育成するためには発達障害であるか否かではなく、個別に対応できる指導方法を構築していく必要がある。

引用・参考文献

戸部郁代, 伊東美佐江(2020). 発達障害を持つ看護職の就労に関する病院の実態. *国際ナースケア研究*, 19(3), 51-59.

安田裕子, サトウタツヤ(2022)TEAによる対人援助プロセスと分岐の記述 - 保育、看護、臨床・障害分野の実践的研究 - (第1刷発行), 誠信書房